

西部支部活動報告：火星観察会

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 国雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025044

西部支部活動報告 —火星観察会—

加藤 国雄*

8月29日(金)浜松市天文台にて、大接近した火星の観察会を実施した。7時に開会の挨拶をする頃には東の空にうす雲がかかり、「火星を見ることは無理かも知れない」という思いが脳裏をかすめた。講師の今村会員の説明が始まった。配布されたカラーの資料に加え、ビデオ画像をも用いて説明があった(図1)。

地球と火星の公転軌道や、何が5万6千年ぶりなのか?ということなど、地学会の会員にとっても、会員ではない子供(高校生が多かった)にとっても、丁寧で分かりやすい解説であった。説明を聴いているうちに雲が去り、幸いにも全員が火星を観察できた。しかも、20cmの屈折望遠鏡で、火星の特徴である極冠をはっきりと見ることができた。2時間ほどの観察会は非常に満足できるものになった。講師を務めて頂いた今村会員と、望遠鏡の構造などを説明して頂いた天文同好会の藤田喜章氏に厚くお礼を申し上げます。

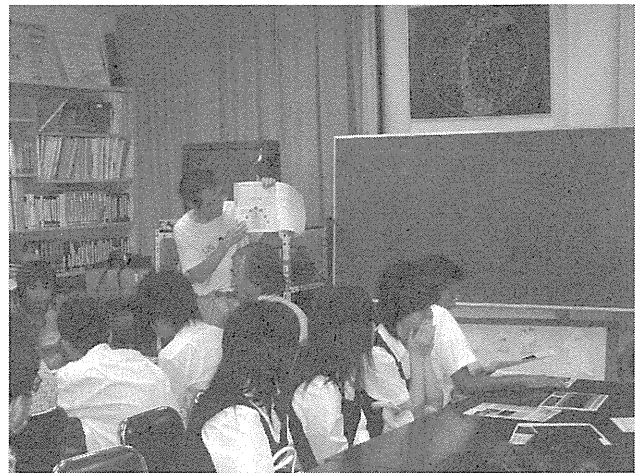


図1

次は、観察会に参加した高校生の感想である。火星観察会で、多くの参加者に新鮮な感動があったことを期待したい。

浜松市天文台の天体望遠鏡で火星を観て私は、まず第一に、火星に氷のかたまり(南極冠)があることに驚きました。私は星に興味があり、星を観るのが好きでしたが、それまで火星はメラメラと燃えているとばかり思っていたのです。よく考えてみると、火星は地球より、太陽から離れているので、地球より温度が高いはずがないことに気付きました。こんな知識のない私ですが、この会に参加させてもらい、星について多少の知識を得ることができたと思います。その中でも、「火星は、なぜ赤く見えるのか?」という私の疑問を解決できたことが良かったと思いました。火星は酸化鉄(Fe_2O_3)でできている、つまり、火星はさびているために赤く見えるということだったのです。これは私の得た知識の一つでしかありません。しかし、これをきっかけに、私の星への興味が益々わき、宇宙への謎が益々深まった気がします。この夏、火星大接近!!をきっかけに、このようなすばらしい経験ができたことをとても嬉しく思っています。

静岡県立浜松南高等学校 2年 大島沙耶乃

* 静岡県立浜松南高等学校